

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

蒲郡市地域公共交通会議 (蒲郡市)

平成25年3月1日設置

令和3年6月 蒲郡市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和3年6月～令和8年3月)

令和7年6月 蒲郡市地域公共交通計画改定
(計画期間：～令和8年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

■ 公共交通ネットワークイメージ

蒲郡市全体の交通網

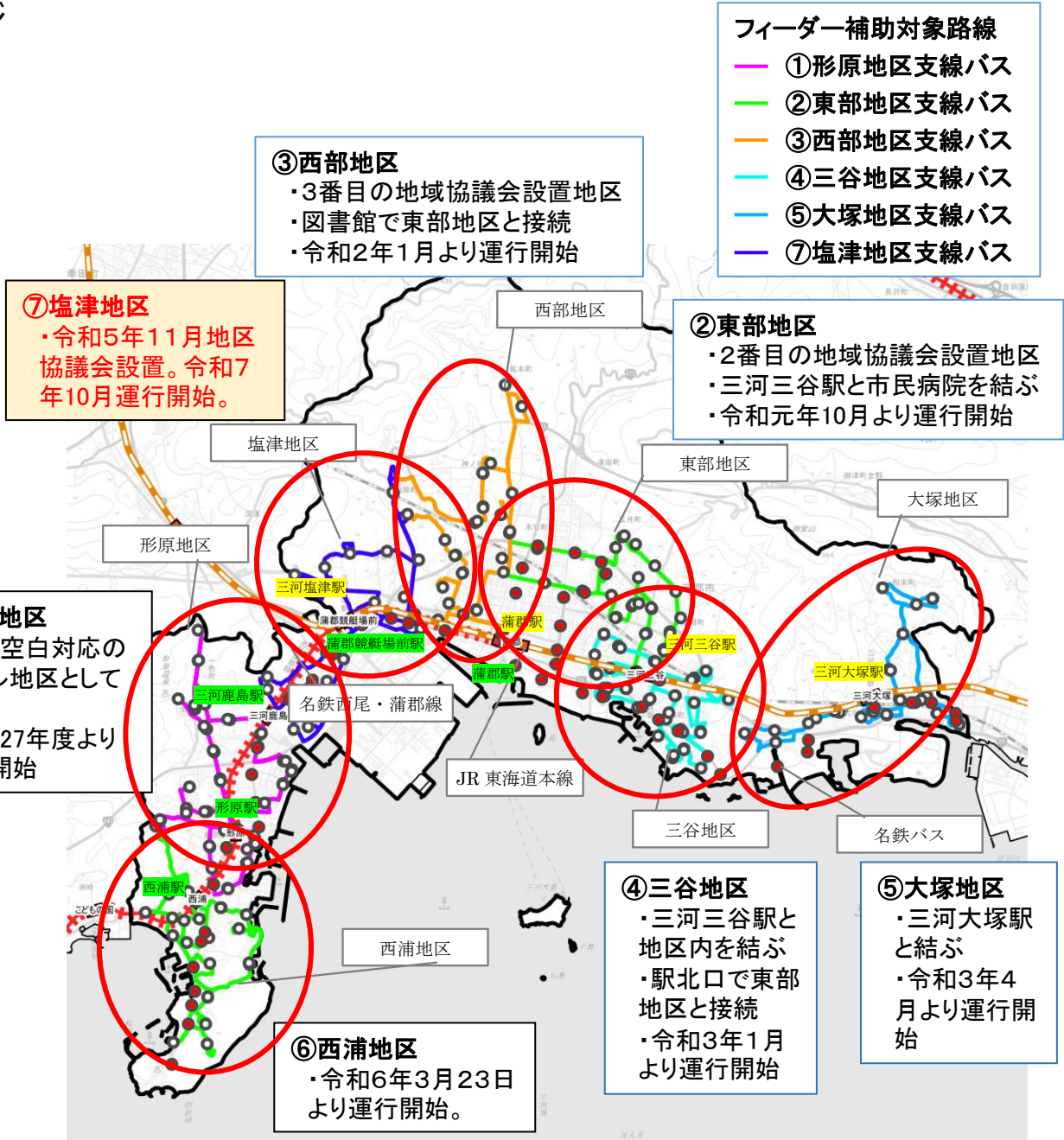
- ・平野部・臨海部に鉄道、路線バスが運行
- ・山間部を含むその他エリアで交通空白問題がある。
- ・交通空白問題地区において、地元主導で地域協議会が設置された箇所は、支線バスの検討・路線設置を行う。
- ・①形原⇒②東部⇒③西部地区の順に展開。
- ・令和3年1月：④三谷地区で運行開始。
- ・令和3年4月：⑤大塚地区で運行開始。
- ・令和6年3月：⑥西浦地区で運行開始。
- ・令和7年10月：⑦塩津地区で運行開始。

■ 地域公共交通計画の将来像及び期間

- 将来像
 - ・子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系が構築されている。
 - ・地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系が構築されている。
- 計画期間：令和3年度～7年度（5カ年）

■ 公共交通の基本的な方針

- 鉄道を中心とした交通ネットワーク網の維持確保（交通空白地解消等）
- 関係者間の連携強化による事業推進（利用促進活動等）



2.【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

■ 目標を達成するために行う事業

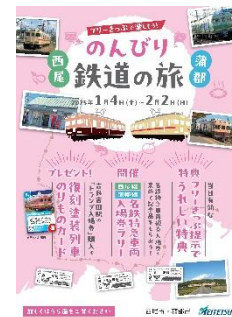
計画の主な目標	主な事業
交通ネットワーク網の維持確保・交通空白地解消	にしがま線（名鉄西尾線・蒲郡線）げんき戦略の推進、地域主導による地元協議組織の組成（形原・東部・西部・三谷・大塚・西浦・塩津地区）等
関係者間の連携強化	名鉄西尾・蒲郡線に関する西尾市・名鉄との三者連携合意に基づく共同イベント開催。東三河全体で、公共交通利用促進イベント実施 等
持続性ある公共交通の確保	バスの乗り方教室、イベントでのバスPR・乗車体験、広告収入の確保、オープンデータ化（GTFS-JP）対応 等

名鉄西尾・蒲郡線

（市民まるごと赤い電車応援団、名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会等）

1) 利用促進活動

- 第13回にしがまシーサイドウォーク(R6/10) 約250名
- フリー切符企画「のんびり鉄道の旅」(R7/1-2) 約1,000名
- 謎解きデジタルスタンプラリー【市制70周年記念事業】(R7/3) 約700名
- 名鉄電車まつり(R7/4) 活性化協議会ブース 約1,000名



路線バス

1) 周知・PR活動

- PRブース、制服着用体験@蒲郡まつり(R7/7)
- 東三河夏休み小学生50円バス(R7/7-8) 9,675人、公共交通フェスタ(R7/8) 約1,000名



支線バス

- 1) めりえ大会・乗車体験の開催（形原地区）
 - ・ 令和6年11月20日、形原中学校にて形原3保育園50名参加
 - ・ 形原公民館にめりえ作品を展示
 - ・ コミバスを知ってもらう、触れてもらう機会として開催。

めりえ大会・乗車体験（形原地区）



- 2) 年間6千人達成記念（形原地区）
 - ・ 令和7年3月13日、地区協議会による達成イベント、記念品授与の実施。
 - ・ 協議会での目標の共有及び地域への情報発信

年間6千人達成記念（形原地区）

累計5万人達成記念（形原地区）



- 3) 累計5万人達成記念（形原地区）
 - ・ 令和7年6月12日、地区協議会による達成イベント、記念品授与の実施。
 - ・ 地域住民へ回覧板でPR。

- 4) めりえ・乗車体験、コンクールの実施（西浦地区）

めりえ・乗車体験、コンクール（西浦地区）

- ・ 令和7年3月13日、西浦保育園にてめりえ会、乗車体験を開催。
- ・ 西浦公民館にて展示、優秀作品を投票で決定。
- ・ 令和7年5月10日、西浦公民館にて優秀者表彰、記念品の授与。



支線バス

5) 保育園・小学校・中学校バス利用（大塚地区）

- 大塚西保育園 ⇄ 大塚保育園（R7.6.10） 見学・体験のための移動に活用、乗車体験
- 大塚小学校乗車体験（R7.9） 地域学習のため実際に運行するバスに一周乗車体験
- 大塚中学校（支援学級）（R6.12.13） 学校行事での移動に活用、乗車体験

6) ダイヤ改正協議（東部地区）

- 地区協議会にて協議を実施。
東部地区⇄西部地区の乗り換え接続
に関して運行時間を調整。
→R7.10.1ダイヤ改正

7) しおつくるりんバス運行協議（塩津地区）

- 塩津地区公共交通協議会にて、運行開始に向けた協議を継続して開催
→R7.10.11運行開始（出発式を開催）

8) 継続実施事業（全地区）

- 地区支線バスのGTFS-JP（オープンデータ化）
各地区支線バスについて運行開始に合わせ対応
- 車体、バス停への広告
地域密着・認知度向上、
及び収支改善策

しおつくるりんバス時刻表



しおつくるりんバス出発式



オープンデータ化



広告事業



3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

■ ネットワークに接続する「フィーダー系統の評価」

※フィーダー補助対象外

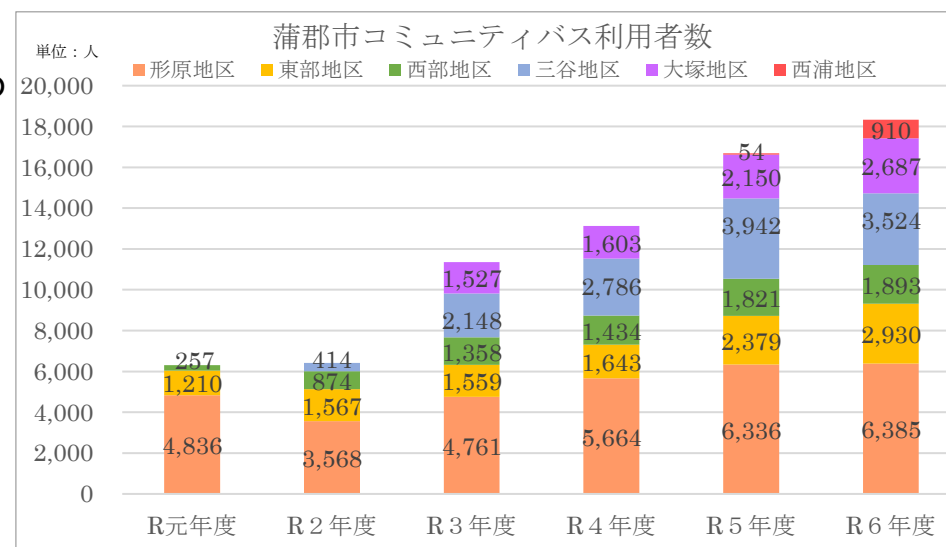
路線	年間利用者数			収支率		
	令和7年度 (目標)	令和7年度 (R6/10~R7/9実績)	達成状況	将来目標 (2025年時点)	令和6年度 (R6/4~R7/3実績)	達成状況
形原地区支線バス	6,350人	6,094人↓	未達成	10%以上	11.8%↑	達成
東部地区支線バス	2,400人	2,606人↓	達成	10%以上	6.0%↑	未達成
西部地区支線バス	1,850人	1,995人↑	達成	10%以上	4.4%↓	未達成
三谷地区支線バス	3,950人	3,065人↓	未達成	10%以上	7.2%↓	未達成
大塚地区支線バス	2,200人	2,999人↑	達成	10%以上	5.1%↑	未達成
西浦地区支線バス※	1,500人	1,010人	未達成	10%以上	2.5%	未達成

○ 利用者数

- 形原・東部・三谷地区で前年度実績から減少、その他地区は増加した。目標値に対しては、形原・三谷・西浦地区で達成できていない。利用者数の減少した地区では、新規利用者が増えず固定化している可能性がある。
- 人口、施設などの地域事情もあり、地区によって利用者数に差が生じている

○ 収支率

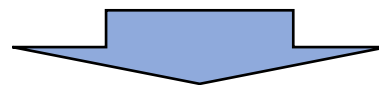
- 収支率目標は、形原地区のみ達成、その他の地区は達成できていない。運行費用の増加もあり、現在の利用状況で10%の目標達成は難しい。
- 利用者数実績との期間のズレにより、形原・東部地区・西部地区で前年度からの増減状況が一致していない。



フィーダー系統全体の利用動向

<自己評価から得られた課題>

- ①鉄道 = 利用者数の増加に向けた利用促進、誘客推進の継続が必要。
- ②路線バス = 利用促進の継続に加え、幹線的な役割として一定のサービス水準で事業維持していく方策が必要。
- ③フィーダー = 運行開始間もない地区だけでなく、利用者の固定化が考えられる地区においても、改めて周知、利用促進等の取組みが必要。
= 地区ごとに利用者数に大きな差がある。相互乗り入れを考慮したルート見直しや乗り継ぎ改善など、ネットワークとしての機能強化の検討が必要。



<今後の取組み>

- ①鉄道の対応
 - ・【通年】市民まるごと赤い電車応援団等による利用促進活動を継続実施。
 - ・【令和8年度中】みなし上下分離による事業継続をふまえた長期的な取組方策の検討を行う。
 - ②路線バスの対応
 - ・【通年】事業者と協力し、利用方法の周知などバス利用促進PRに取り組む。
 - ・【令和8年度中】ドライバー不足に起因する事業維持課題への対応策（路線再編）の検討を行う。
 - ③フィーダー系統の対応
 - ・【通年】7地区でのモニタリング・PDCAの実施による適正運行の継続。
 - ・【令和8年度中】利用方法や利用例の発信などにより、日常の移動手段として選択されるよう周知・PRを工夫して新規利用者の獲得を目指す。
 - ・【令和8年度中】路線バスにおける路線再編の検討状況をふまえて、フィーダー系統のルート見直し、乗り継ぎ利便の強化等の検討を行う。
- ★令和8年度は、新しい地域公共交通計画の初年度。計画に位置付けた事業推進を行う。

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

直近の二次評価結果 (令和7年3月)	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p><令和7年3月27日付163号通知></p> <p>○評価できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで実施していた「夏休み小学生50円バス」に加え、「公共交通をつかったオリジナルツアーの募集」を実施するなど、東三河8市町村及び交通事業者と連携し、地域公共交通の利用促進に資する取組を継続的に行っていることを評価します。 また、東三河地域MaaSの実証実験など、東三河8市町村及び交通事業者と連携して公共交通の利便性向上に向けた取組を実施していることを評価します。 ・新たに待合所を設置し、利用者の待合環境改善に取り組まれたことを評価します。 ・利用者の利便性向上のため、西浦地区の支線バスが新たに運行開始されたことを確認しました。 ・塩津地区での支線バス運行について、既存公共交通との調整を図りながら運行ルート・ダイヤ等を検討されていることを確認しました。 <p>○期待する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内フィーダー系統の評価に当たっては、収支の評価指標について、交通ネットワーク全体での収支を把握し、また燃料費や人件費の上昇等社会情勢の変化も考慮した視点で、目標値の見直しの検討も含め関係者間で議論されることを期待します。 ・市内の鉄道や路線バス、フィーダー系統について、乗り継ぎ利用を意識した周知を積極的に行うなど利用促進につながる取組が関係者の連携の下進められることを期待します。 ・地域内フィーダー系統について、PDCAサイクルを機能させ、利便性向上につながるような取組が行われることを期待します。 	<p>○広域連携事業に係る取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夏休み小学生50円バス」や東三河地域MaaS事業について、東三河地域の関係者と連携し継続実施している。 <p>○フィーダー系統に係る取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区協議会を継続的に開催、各地区の実績を共有し、地域の利用促進の取組などの必要性を確認した。 ・収支率などの地区ごとの実情に応じた目標設定について、次期計画協議の中での検討事項とした。 ・PDCAによる利便性向上について、乗り継ぎ改善を含むこれまでに確認された課題等について、路線バス再編の検討状況に合わせて地区協議会での検討を進めることを地域と確認している。 <p>○路線バスに係る取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者から、ドライバー不足問題による長期的な路線維持が難しい状況の申し出があり、事業維持方針に関する検討協議を開始した。 ・幹線的な役割としてサービス維持や支線バスとの乗り継ぎ利便の向上、路線バス再編に合わせて支線バス改善を目指すため、交通事業者に地区協議会を加えて協議を始めた。 <p>○名鉄西尾・蒲郡線に係る取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなし上下分離による事業存続を関係者で合意し、鉄道事業再構築実施計画の策定に向けた検討を開始した。 	<p>■全体：次期地域公共交通計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度からの新しい地域公共交通計画を策定し、継続的なモニタリング、PDCAを回しながら新計画に基づく事業実施を行っていく。 <p>○路線バスの再編検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者等との協議を継続し、持続性のある路線バスの再編案の作成、実施に向けた検討協議を進める。 <p>○支線バスの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期計画の協議において、フィーダー系統全体での収支把握や現況に即した目標設定への見直しを検討する。 ・路線バスのあり方の検討状況をふまえながら、相互乗り入れ、乗り継ぎ利便性の向上策等の検討を進める。 <p>○名鉄西尾・蒲郡線の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業再構築実施計画の策定準備を進める。 ・関係者との連携事業を継続し、沿線の魅力向上、利用促進を進める。

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

直近の二次評価結果 (令和6年3月)

<令和6年3月21日付191号通知>

○評価できる取組

- ・これまで実施していた「夏休み小学生50円バス」に加えて、謎解きゲームを実施し、東三河地域の自治体と連携してバス利用促進を行ったことを評価します。
- ・西浦地区の交通空白地の解消に向け、鉄道駅との接続や形原地区支線バスの接続も考慮し、関係事業者と綿密に調整の上、路線案、ダイヤ案にかかる協議を行ったことを評価します。
- ・地域支え合い座談会のバス体験乗車・話し合いを機に、地区の社会福祉法人がベンチを作成・寄贈し、病院が設置・管理するという地域主体での待合環境の改善を図る取組が実施されたことを評価します。

○期待する取組

- ・地域内フィーダー系統において1運行あたりの輸送量が2人未満の系統に関して、地域の住民と意見交換をおこない、利用ニーズの深掘りや周知、利用促進に向けた対策が行われることを期待します。
- ・市内の鉄道や路線バス等について、更なる利用者数の回復や新規利用者の創出に向け、関係者と連携し、公共交通ネットワークとしての乗り継ぎ利用も含めた利用促進等に係る検討や取組が進められることを期待します。
- ・令和6年度に予定している西浦地区支線バスについて、利用状況を継続的に把握し、PDCAサイクルの下、利便性と持続可能性の向上につながるような取組が行われることを期待します。
- ・待合環境の向上は、乗り継ぎ抵抗の緩和にとって重要であるため、好事例のPR等を図りながら、引き続き、地域との協働・共創による利用環境の整備が進むことを期待します。

事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)

○広域連携

- ・「夏休み小学生50円バス」等の東三河地域の関係者との連携事業を継続実施している

○利用の少ないフィーダー系統の対策

- ・各地区協議会を継続的に開催し、実績や意見を共有した。会議では、路線の延長や停留所の新設意見が多く、地域での利用促進の取組みがなかなか進まない状況にある。まずは新規利用者を増やすためにも周知を地域の住民と進めていく。
- ・西浦地区支線バスについては、利用が伸びず、周知不足であるとして、地区協議会で回覧板での周知・意見聴取を実施した。

○路線バスに係る取組

- ・出前講座として、作成した公共交通マップを活用し、支線バスとの使い分けなどに触れて乗り方講座を実施した。
- ・公共交通ネットワーク再編検討調査を実施、次期計画の更新に向けてネットワークの見直し検討などを内部的に進めた。

○名鉄西尾・蒲郡線に係る取組み

- ・公共交通の拠点とすべく、西浦駅に待合所を新設した。
- ・事業者及び西尾市とともに各種利用促進事業を行い、新規利用者の創出にも取り組んだ。

今後の対応方針

■全体：市交通会議でのPDCA

- ・期間満了を迎える交通計画の評価を行い、更新に向けた協議を行う。

○路線バスに係る取組

- ・サービスの維持を目指し、交通ネットワークの見直しの検討を行う。

○支線バス（交通空白地対応）の取組

- ・地区協議会で支線バス事業のモニタリングを継続実施し、利用促進のため、地域に密着した情報発信を進めるとともに、広告収入の獲得強化を進める。
- ・塩津地区での新規事業化及びその周知に合わせて既存路線やバスネットワークの強化をPRし、利用促進に繋げる。

○名鉄西尾・蒲郡線の活動

- ・運行継続協議
- ・関係者との連携事業を継続し、新規イベントの創出など沿線の魅力向上、利用促進を進める。

6.計画・評価の推進体制

<PDCAの進め方>

- ・地域公共交通計画の進行管理は、計画期間の5カ年を通してPDCAを行う。
- ・各年度は、地域公共交通会議において各年度事業の計画を設定し、事業の進捗状況と計画の数値目標等(利用者数・カバー率)を通して、計画の進捗を評価する。

<協議会の開催状況>

- ・年間約3回のペースで開催。
- ・交通計画を策定、年度事業の協議、事業進捗を評価・確認を進めている。



回数 (実施日)	進捗管理に関する協議事項	実施内容
43回 (R6/12/10)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業の自己評価 ・塩津地区支線バスの運行計画協議 ・東三河MaaSいこまい実証実験 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部様式等の自己評価の協議 ・支線バスの新規事業計画の協議 ・広域連携事業の確認
44回 (R7/3/26)	<ul style="list-style-type: none"> ・R7事業計画、予算案の協議 ・塩津地区支線バスの運行計画協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・R7年度の事業計画の協議 ・支線バスの新規事業計画の策定
45回 (R7/6/25)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業の二次評価結果 ・交通計画の事業進捗の確認 ・R7生活交通確保維持改善事業計画 ・次期地域公共交通計画について 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業の二次評価結果の共有 ・交通計画進捗状況の評価確認 ・R7補助事業計画の協議 ・次期計画の協議の進め方の確認